

(様式2)

令和 4 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590200539		
法人名	社会福祉法人あいあい		
事業所名	グループホーム小国あいあい(2ユニット共通)		
所在地	新潟県長岡市小国町太郎丸1520番地1		
自己評価作成日	令和4年11月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会 外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和5年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症の終息が見えないなか、ご利用者が安心して役割や楽しみのある生活が送れるように支援しています。またコロナ禍の中でも地域とのつながりを大切にしなが、出来る限りの地域行事にも参加しています。事業所内行事では地域のスーパーやお店を活用し地域と密接な関係作りも行ないながら、ご利用者に楽しんだり懐かしんで頂けるようにしています。ご利用者一人ひとりが生き活きとした生活が送れるように、個別支援にも取り組み今、望んでいることを実現できるように、ご利用者の気持ちに寄り添い支援しています。現在看護師が在籍しており医療機関と連携しながらターミナルケアにも力を入れ「最後までここで」という方やご家族様の思いを実践しています。職員の介護技術と知識の向上のために内部、外部研修を取り入れながら今後もご利用者が住み慣れた地域で楽しく安心して過ごせるように日々の業務に努めて行きたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「あたたかい施設を目指す」というスローガンのもとで管理者を中心に利用者の暮らしの支援に努めている。法人全体として令和2年度から2年間にわたり『自立支援』に重点的に取り組んでおり、今年度は、排泄をはじめとした日々の生活場面で利用者の自立につながるよう支援をしてきた。事業所では、家族との関係がやや薄いということも課題として認識し、家族との関係の強化を目指して取り組んでいる。また、今年度は事業所の地域貢献活動の一環として、事業所に来る移動スーパーを近隣の方の社会資源としても活用してもらい取り組みを始めた。まだ近隣の方の利用に至っていない状況ではあるが、周囲にはお店等がない地域であり、今後のさらなる展開を期待したい。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を様々な所に貼り出し、職員間で共有し実践している。	年度初めのユニット会議で事業所の理念を確認しているほか、年間を通して会議等で継続的に職員間で理念を共有している。法人の理念とともに事業所の理念を掲示し、利用者や家族とも共有できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中でも地域行事のかかし祭りの参加や地域スーパーへの買い物など地域とのつながりを大切にしている。	事業所として町内会に加入しており、感染症対策を行いながら、地域行事である「かかし祭り」にも参加した。移動スーパー「とくし丸」に事業所に立ち寄ってもらい利用者の買い物の機会を作るとともに、地域住民にも広報して利用の案内をするなど地域貢献に努めている。また、利用者の希望に応じて、地域の衣料品店等への買い物の機会を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染対策の為、地域の方々との直接的な機会を設ける事が出来なかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策の為、書面開催で運営状況や行事、事故報告などの報告を行ない、事業所に対する評価や要望、助言等の回答を頂きサービスの向上に活かせるよう努力している。	運営推進会議は隣接する同法人の特別養護老人ホームと共同で実施している。現在はコロナ禍のため書面での開催となっているが、次回(5月)は対面での開催を予定している。利用者向けに事業所内に報告書を掲示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と連絡を取り情報共有に取り組んでいる。市の職員が来所した際は、指導を受けて今後のサービスに繋げている。	長岡市介護保険課には介護保険制度に関する相談を行ったり、長岡市長寿はつらつ課からは研修の協力を得るなど、行政担当者と連携している。市の介護サービス相談員派遣等事業による相談員も定期的に受け入れて、利用者の声を聞いてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で職員の教育と意識向上をはかり、身体拘束防止の理解を深めている。具体的に4本柵禁止や玄関に施錠をしない等の取り組みを行なっている。	法人内の委員会において3か月に1回、身体拘束防止に関する検討を行っており、事業所から各ユニットリーダーが参加している。昨年5月と9月には虐待防止に関するチェックリストを活用した内部研修を行い、事業所内の支援の振り返りを行った。また、外部講師による高齢者虐待防止等に関する研修も実施し、業務等で参加できなかった職員には動画を活用し、全職員で研修内容を共有した。日中は玄関は施錠せず、センサーマットを使用しているが、その使用に関しても適時、職員間で振り返りを行っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で知識を高めユニット内で虐待に該当する事がないか考え、会議などの場で話し合い全職員で防止に努めている。	職員が意図せず虐待にあたる行動をしていたということが発生しないように、ユニット会議やチェックリスト等を活用した検討の中で虐待防止を徹底している。利用者から話しかけられても「待っててね」という対応や、コールボタンが利用者の手の届かないところにあるなど、不適切ケアにつながる可能性のある対応についても検討した。管理者を中心として職員の状況にも配慮し、いつも様子が異なる時などは必要に応じて個別の対応をとっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修等で学び、日常生活自立支援について少しでも「今」できる事を継続支援している。個々の必要性については多職種で検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネが中心になり見学時、入所時に説明を行なっている。ご家族からの不明点や不安な事等の把握に努め、施設案内の際に質問に答え不安解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度調査や運営推進会議の報告など書面開催し、ご家族からの意見や要望を伺っている。ご利用者からは日々の関わりの中で要望や意見を伺い、ユニット会議やカンファレンスで取り上げサービスに反映させている。	利用者・家族との日々の会話の中から要望の把握に努めており、利用者からの要望に応じて「カップラーメンの日」や「出前の日」などの取り組みを行っている。コロナ禍での家族からの要望で最も多いのが面会希望であり、これに対してはガラス越しや人数制限などの工夫をして面会の機会を提供した。令和4年12月には家族向けのアンケートを実施し、内容を精査しているところである。	事業所では、家族向けに実施したアンケート結果を精査し、次の取り組みにつながるよう検討中であり、今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議で自由に発言ができています。会議以外にも意見や提案できる機会があります。	毎月1回、全職員が参加してのユニット会議を実施している。職員は、会議や、直接管理者へ伝えるなどの方法で意見を出している。職員からの意見や提案に対しては、管理者は賛同したうえで実現のための提案書等の提出を求めている。日常の業務に関する提案は、担当職員を中心として実現に向けて取り組みを進めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考課表があり職員の努力や勤務状況、勤務態度など適正に評価され、環境や能力に応じた配置やシフト作成され働きやすい環境作りがされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー研修や介護福祉士の資格取得に向けた研修などに参加できるようにしている。また全職員が内部研修に参加しやすいシフトが組まれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した際は同業者と意見や情報交換を行ないサービスの質を高めている。また、SNSを通じたネットワークに参加し実践に役立っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所後は信頼関係構築を第一に考え、積極的に声掛けを行ない、不安を取り除けるよう対応している。ご家族の要望は可能な限りお聞きし相談しやすい環境になっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者のご家族に在宅時の生活歴を確認し、必要と思われる支援を計画し提案、策定し実践することで、良い関係作りが出来る。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に事前面接などを行ない入所時に作成した暫定プランを3か月以内にカンファレンスを行ない、ご本人やご家族の望む支援に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話を沢山するように心掛け、ご利用者と職員の間で良い関係が築けている。ご本人の要望を出来る限り取り入れ、無理なくできる事はやって頂き、共同生活の場としての関係作りを行なっている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りを発行し日常の様子をお伝えしている。電話連絡の際にも意見交換を行なっている。	家族とは電話や携帯メール、月に1回の写真入りのお便りなどで連絡をとっている。利用者の健康状態や、転倒等のリスクに関しては看護師から連絡し説明している。買い物の依頼などは担当職員からその都度連絡を入れ、コロナ禍ではあるが、共に利用者を支えていく家族との関係を維持できるよう工夫している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙の代筆や投函の代行、電話連絡の対応など幅広く対応している。	友人との電話のやりとりを仲介したり、手紙を代筆するなど、利用者と馴染みの人との関係継続を支援している。大雪で自宅の様子が心配になった利用者には、家族に同行してもらって自宅に行けるよう調整した。同法人の他施設へ住み替えをした利用者が訪ねてきた折には、ノンアルコール飲料で乾杯して再会を喜び、楽しく過ごした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間には出来る限り全員が集まれるように声掛け行ない、必要時には職員が間に入り、良い関りが出来るように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設内の特養や別ユニットに入所されたご利用者に面会に行っている。契約終了後も必要に応じて情報提供を行ない、相談などの支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当、ケアマネを中心に個々の思いを汲み取りながら、話し合い思いや意向を把握している。意思疎通が困難な方に対してはご家族や職員間で十分に話し合いながら思いや意向の把握に努めている。	入居前には、計画作成担当者が自宅や利用中のサービス事業所へ出向いて事前面談を行い、利用者と家族から意向や希望を聴取している。入居後は、担当職員を中心に日常生活の中で思いや意向の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、その後もご本人やご家族から自宅での過ごし方をその都度お聞きし、これからの生活に活かせるように配慮している。	見やすく工夫された事業所オリジナルの介護連絡票を使用し、情報を収集している。年1回、記載内容の更新を行っており、年度途中で追記する場合はわかりやすいよう赤字で記入している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当を中心に様子観察を行ない、状態の変化を職員間で情報共有するように努めている。変化があった場合はミニカンファレンスを行ない、情報を共有しながら誰もが同じサービスを提供できるように心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリング、カンファレンスを実施し、統一したケアが出来るように情報共有している。その上で次期の介護計画に反映させてケアを実施している。また変更時にはご家族に相談、連絡し介護計画に反映させ、情報共有している。	ひとりの職員が利用者2名の担当職員となっており、担当職員が行う3ヶ月に1回のモニタリングをふまえ、ユニット会議で職員間で検討し、1年に1回の計画更新の際にサービス担当者会議を行って、本人・家族からも意見や要望を聞き、計画を作成している。サービス担当者会議には、利用者、家族、ユニット職員、計画作成担当者が参加できるよう調整している。家族との関係が希薄になりがちであるため、その改善策のひとつとしてサービス担当者会議を活用できるよう取り組んでいるところである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し、特に共有が必要な情報は申し送りとして常に全職員が共有できるようにしている。また、プランに沿った記録も残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日その時、一人ひとりに合ったサービスを工夫しながら提供している。また、日々の状態に合わせてサービスの内容を変更している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や日々の中で近隣のスーパーやお店などを活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設している特養のかかりつけ医が月に一人回は診て頂けるよう往診してくれており、看護師と連携しながら状態に合わせて適宜内服薬の変更や外用薬の処方などしてくれている。また、必要があれば職員が同行し受診できる体制ができています。	入居前からのかかりつけ医を継続することもできるが、内科については、現在の利用者は全員、併設施設の嘱託医にかかりつけを変更している。眼科や歯科などは家族に受診対応をしてもらっている。医療機関との連携には情報提供書を活用するとともに、状況に応じて併設施設の看護師を通じてやり取りを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が在籍しており、その都度相談ができています。また、受診先との連携もとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者または看護師が入退院に関わる情報交換を常に行なっており、入院中は病院と連携を図り退院時の受け入れ態勢を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に関するご家族の意向を伺い確認書を交わしている。「緊急時家族連絡表」を作成し迅速にご家族へ連絡が取れるようにしている。また、終末期について職員間で知識を共有し実施している。	入居契約時に、契約書、重要事項説明書、「急変時における意向確認書」、「看取り介護に関する指針に関する意向確認書」に同意を得ている。特別養護老人ホームの利用申請が可能になる要介護3の状態を目安として、都度意向を確認している。併設の特別養護老人ホームの看護師と嘱託医による協力体制があり、看取り時の対応も職員間で情報共有している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命や誤嚥について内部研修を実施している。緊急連絡網を配備し緊急時の対応方法についてフローチャート図を整備している。	併設の特別養護老人ホームとの併用でAEDを設置しており、看護師を講師として研修も実施している。緊急時連絡先一覧を電話のそばに用意し、緊急時に備えている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署より年2回の避難、消火訓練を実施し指導を受けている。	6月と12月に火災を想定した通報・避難・消火訓練を行っている。防災委員が配置され、災害発生時における併設施設との連携体制が構築されている。土砂崩れや水害についても今後の対応を検討中である。食料品や水などの備蓄は3日分用意している。	地域の避難訓練にも参加予定だったがコロナ禍のため中止になった。今後の実施と、これらの訓練参加を通じた地域との協力体制の構築・強化に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どのような場面においても常に年長者である事を念頭におきながら、笑顔で声掛けや対応をおこなっている。申し送りやPC入力等のご利用者には聞こえない、見えない場所に配慮し行なっている。	接遇に関する研修を年間計画に沿って実施している。また、排泄支援では特にプライバシーに配慮し、利用者がトイレの近くにきたタイミングでさりげなく声かけ・誘導したり、尿取りパット等の排泄用品の保管場所を利用者自身が使えるところにするなどしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さなことでもご利用者の希望に耳を傾け、自己決定しやすい環境作り、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間はほぼ決まっており、ご利用者自ら時間を見ながら集まって下さっている。要望があれば居室でお摂り頂いている。食事お茶以外の時間はご本人のペースを尊重し過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時等のご自身で着る服を選んで頂き、好きな服を着て頂いている。希望があれば定期的に理髪も行なっている。各居室に洗面台があり、可能な方はご自身でも身だしなみを整えられている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食事の他に行事に合わせた特別食や季節食を提供したり、事業所内の畑で収穫した野菜をご利用者のリクエストに合わせて調理など提供している。ご利用者には下ごしらえや刻む、後片付けなどお願いしている。	朝、昼、晩の3食ともに業者から配達される食材を使用して調理しているが、月に1回程度、敷地内の畑の野菜を使用した食事の機会を提供している。おやつを含めて利用者が準備や食材の下ごしらえなどに加わっている。利用者の要望に応じて弁当を購入したり、カップラーメンの日を作るなど、食事を楽しめるよう柔軟に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの整った食事を提供しているが、咀嚼状態、飲み込み状態に合わせて刻み～ムース食を提供している。また残食の多い方には栄養補助食を補給して頂く等の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けする事で自立で歯磨きを行なわれる。自立ケアが困難な方には職員が介助行ないケアを行なっている。義歯の洗浄も夕食後にお預かりしポリデント消毒行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要であればトイレ誘導を行なっている。日中は自立に向けた支援を行ないパットやリハビリパンツの使用枚数を減らす努力をしている。	各ユニットに3か所のトイレがある。トイレでの排泄を促し、結果としてリハビリパンツなどの使用数が減少している。尿取りパットなどの排泄用品を利用者自身が取り出せるよう配置場所を決めるなど、工夫しながら利用者の自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ下剤に頼らず、乳製品を試したり、水分量を増やすなど意識づけがある。1日1回は運動をする機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間の計画は立ててあるが、出来るだけご本人の要望に応じている。入りたくない気分の時は日にちや時間を変更しご本人の意思を尊重している。入浴の対応はマンツーマン対応でゆっくり入って頂いている。	各ユニットにそれぞれ浴室があり、また、利用者の体調や身体状況によっては併設の特別養護老人ホームでの入浴も可能である。季節に応じて、菖蒲や柚子などの変わり湯、ドクダミ湯などを利用者に楽しんでもらっている。入浴の曜日や時間帯など一定の入浴の計画はあるが、本人の希望を確認し、気が進まない時には時間等を変えて入浴してもらうなど柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の排泄状態に配慮し安眠して頂く事を心掛けている。就寝時間に関しても個人の意思を尊重している。夜間の排泄に関しても安眠を妨げないよう、誘導や排泄介助を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止にダブルチェックを行なっている他、セット、チェック、内服時3回確認出来るように薬ケースに内服状況が分かるように表を貼り出している。また処方箋をファイリングし情報共有を図っている。状態の変化に応じて看護師や医師と連携し薬を調整して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や片付け、洗濯物干しやたたみ物などの軽作業の役割の他に、レクや行事など定期的に行ない気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策を行ないドライブに出掛け山や公園など季節を感じられた。また施設内では野菜作りや草取りなど楽しみを提供している。	コロナ禍ではあるが、感染防止対策を行いながら行き先を工夫してドライブをするなどしている。また、事業所周辺を散歩したり、花壇や畑の手入れをするなど、日常的に戸外での活動を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理できる方はご家族の了承を得た上で、ご本人が管理している。管理が困難な方は職員が管理し、必要な物品は買い物に同行したり、代行し管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている方は、ご自身で管理し電話をかけたりしている。その他の方は希望があれば電話をかけたり、取次ぎを行なっている。お手紙等は投函を代行したり代筆のお手伝いを行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃し温度や湿度管理を行ない快適に過ごせるように配慮している。フロア内は季節ごとに掲示物を変えたり、行事の写真を掲示し設えを整え居心地の良い空間作りを心掛けている。	行事担当職員が年間計画により、事業所内の季節感ある雰囲気づくりに取り組んでいる。今回の訪問調査時は2月半ばであり、節分やひな祭りにちなんだ装飾がされていた。共有スペースは利用者がくつろげるよう居心地よく整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	互いの居室の行き来もあるが、フロアに集まって会話を楽しまれたり、廊下の一角に椅子を設置し、気の合った利用者同士で過ごせる空間で談笑される場面も多くみられている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や面会時にご本人が使い慣れた物や、希望された物を持参頂く事がある。身体状況に合わせ家具の配置を適宜変更し、安全と居心地の良さを確保するようにしている。	事業所側でベッド、タンス、エアコン、空気清浄機を準備しているが、使い慣れた家具や好みのものを持ち込んでもらっている。入居前から使用している椅子、家族の写真、利用者が手作りした手芸作品や絵などにより、その人らしい居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理学療法士より個々の状態に合わせ安全に自立生活を送れる方法の指導を受け自立支援を行なっている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				